

《専門教育科目 専門応用科目》

科目名	国際理解教育論				
担当者氏名	新堀 春輔				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択必修	開講年次・開講期	4年・春期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 専門応用-1 国際社会に貢献できる人材育成				

《授業の概要》

講義・ワークショップ・実践を通じて、国際社会の中で生活する子どもたちが、異文化・国際理解をすすめ、多文化共生の社会づくりについて考える機会をつくるために必要な視点と学習の場づくりのスキルを学びます。NGO等で実際に国際理解教育の活動をしている方のお話を聞く時間を持つことも計画しています。また、学校等で、実際に「学びの場」をデザインするための模擬授業計画と実践を行ないます。

《授業の到達目標》

国際社会の中で生活する子どもたちが、異文化・国際理解をすすめ、多文化共生の社会づくりについて考える機会をつくるために必要な視点と学習の場づくりのスキルを習得することを目標とします。

《成績評価の方法》

平常点（受講態度及び、演習・ワークショップへの主体的な参加） 60%、模擬授業（グループ発表） 20%、レポート 20%

《テキスト》

特になし。
適宜、参考資料を配布します。

《参考図書》

日本環境教育学会編『環境学習のラーニング・デザイン』（2019）キーステージ21

《授業時間外学習》

指導実践計画では、授業内でも準備の時間を設けますが、必要に応じグループで集まって準備をすることがあります。

《備考（教員経験の有無）》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	国際理解とは何か？なぜ必要か？を考える【ワークショップ】
2	国際理解教育とは	国際理解教育の教材の体験（導入として）【ワークショップ】
3	国際理解教育・開発教育・ESD・SDGsとは	国際理解教育と開発教育の歴史、そしてESD、SDGsといった世界の動きや視点について【講義】
4	国際理解教育の進め方	体験学習法/アクティブ・ラーニング【講義・ワークショップ】
5	国際理解教育の体験①	UNESCOの国際理解教育、世界の平和・人権について考える【ワークショップ】
6	国際理解教育の体験②	世界の構造的な不公平について考える【ワークショップ】
7	国際理解教育の体験③	国際NGOゲストによるワークショップ①【ワークショップ】
8	国際理解教育の体験④	国際NGOゲストによるワークショップ②【ワークショップ】
9	指導実践計画①	国際理解教育の授業の組み立て方について確認、グループ分け・テーマ決め
10	指導実践計画②	グループ毎で国際理解教育の指導実践計画（授業案）づくりと発表準備
11	指導実践計画③	グループ毎で国際理解教育の指導実践計画（授業案）づくりと発表準備
12	指導実践とふりかえり①	各グループの授業計画の指導実践とフィードバック
13	指導実践とふりかえり②	各グループの授業計画の指導実践とフィードバック
14	指導実践とふりかえり③	各グループの授業計画の指導実践とフィードバック
15	まとめと全体ふりかえり	全15回の講義のまとめ